

「子ども・未成年」

- ・子どもをまちづくりの担い手として、子どもの年齢に応じた役割を定めます。

解説

・これからの旭川を「まちづくり」していく中で、大人だけでは無く、子どもの意見や視点は大変重要であると考えました。市民には大人・子ども・団体など様々な立場がありますが、その中でもとりわけ、子どもはまちの将来を担ってゆく重要な存在であるので、条例では、大人だけでは無く、子どもも「まちづくり」の大事な担い手であることを明確にすると共に、その年齢に応じた役割について規定したいと考えました。

・子どもの頃から「まちづくり」について考え、その取り組みを経験していくことが、旭川市を身近に感じ、郷土愛を育む良いきっかけとなり、子どもが将来内外から旭川を盛り立てていく人材に育っていくと考えました。また、親などの子どもに関わる様々な人にとっては、旭川の魅力を子どもから再発見する機会を得ることが出来るなどの相乗効果も期待出来ます。

「市民参加・市民提案・市民アンケート」

- ・市政に市民の声が反映されるような仕組みを検討します。

解説

・行政が考えている課題と市民が考えている課題は必ずしも同じとは言えません。市民の要求・要望を知り、地域や市全体の課題を共有していくことが重要だと考えます。そして市民・議会・行政それぞれの役割の中で、同じ目的に立ち、協力していくことで、よりよい成果に繋げることが出来ると考えます。また、まちづくりに参加しやすい環境を整え、まちづくりを活発にしていくことが重要だと考えます。それこそが市民が主役であることを実感でき、市民でまちづくりを進めていく原動力になるものであると思います。

- ・手法では、たとえば市民の意見を市民が評価するシステムなどを考えました。

「コミュニティ」

- ・①コミュニティのあり方や役割等を定めます。
- ・②コミュニティの活動が尊重され、その活動が活性化することによるまちづくりを推進します。

解説

① コミュニティには活動縁によるもの（ボランティア、サークル等）や地域縁によるもの（町内会、市民委員会等）などがあり、その活動はまちづくりを大きく左右していくものであります。そのあり方や役割を表現することでまちづくりが進めやすくなると考えます。

② コミュニティのつながりや目的は様々ですが、その活動の活性化は、それに関わる人の交流を深め、旭川市に活力を生むことに繋がると考えます。また、コミュニティが相互に連携することにより新たな力が生まれ、これまでにないまちづくりの推進に大きく寄与します。そのために市民及び行政は、コミュニティの活動を尊重するとともに、活動の支援等活動しやすい環境を整えることが重要だと考えます。